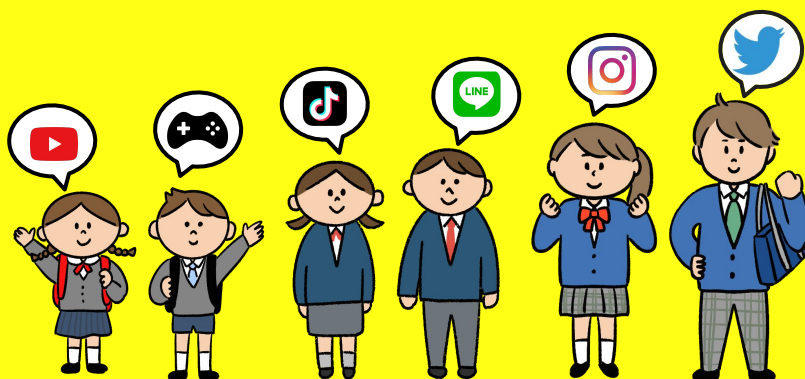


今、子どもたちが**危**ない!!

～「SNS」を通じて起こっている犯罪の実態とは～

● どのくらいの子どもたちが「SNS」を通じ被害にあっているか知っていますか？

今年、警察が発表した資料によると、令和3年に SNS を通じて被害にあった児童生徒の数は **1,812** 人にも及ぶそうです。被害数は年々増加傾向にあり、校種別では高校生と中学生が大半を占めていますが、小学生の被害も83人と決して少なくはない数字です。スマホ所持の低年齢化が進み、大人たちだけでなく子どもたちも当たり前のようにネット・SNSを利用するようになり、気軽に見知らぬ人とやりとりすることで、思わぬ被害にあってしまう子どもたちが増えてしまっているのが現状です。



(警察庁)「令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」
(<https://www.npa.go.jp/news/release/2022/20220308002.html>)より作成

● どのような被害や犯罪が起こっているの？

最も多く起こっているのは、^{いんこう}淫行に関する被害(性行為、売春、援助交際など)と児童ポルノに関する被害(裸の写真の撮影被害など)です。次いで強制性交、^{ゆうかい}誘拐、強制わいせつなどの犯罪が起こっています。

きっかけはダイレクトメッセージでの「闇バイト」「パパ活」といった直接的な勧誘や、趣味を通じて知り合った人が性別や年齢を偽った隠れ犯罪者であったケースなど様々です。SNSで知り合った人からわいせつ行為を受けたり、裸を撮影されたりするニュースも近年多く見かけるようになりました。決して他人事とは思わず、ネットで知り合った人に会うのは危険が伴うと、意識することがとても大切です。



— 子どもたちを守るためにできること —

SNSを使用することは決して悪いことではありません。自分をアピールする居場所として使ったり、世界中の人とつながることで知見を広げられたりします。子どもたちが、オンラインゲームや動画投稿アプリを使っているだけのように見えても、親の知らないところで見知らぬ人とメッセージのやりとりが行われ、誘い出しにあっていることがあります。出会う人すべてが危険な人物とは限りませんが、ネット上の相手の本当の目的や姿は見抜くことはできません。思わぬ事件や被害にあってしまう怖さがあるのです。こういった被害や犯罪を防ぐためには、「みんなやっている。自分は大丈夫。」「この人はいい人だから。」といった子どもの考えだけで判断せず、SNSには「リスク」があるという認識をもたせ、誤った道に進まないよう日頃からコミュニケーションをとる環境を作りましょう。また、SNSを使用する際のルールを決めるなどし、ネットリテラシーをお互いに高め合い、危険から身を守る能力を身につけていきましょう！

夏休みに向けて「SNS」を利用することのリスクやルールを
親子で一緒に考えて話し合ってみませんか？

